

組織

会長	倉田 和人	(岩城中学校)
副会長	菊地 邦彦	(西目小学校)
事務局	山下 奈知	(本荘南中学校)
	宮田 幸江	(尾崎小学校)
研究部長	関口 琢也	(金浦小学校)
会計	須田 秀二	(仁賀保中学校)

主な事業

令和 4 年度造形部総会 (紙面) 4 / 27

造形部研修会 12 / 7

本荘由利図工・美術の学び展 12 / 17 ~ 12 / 19

夏季研究集会への参加 8 / 2

研究会の記録

1. はじめに

各校の教科研究や地区の研究会等で造形部員それぞれが研鑽を積み、指導法の研究や児童生徒の表現がどうあるべきかを考察すること、また、夏季研究集会・本荘由利図工・美術の学び展・県児童生徒美術展など、様々な形で積極的に研修することを当会の具体的な目標とした。特に、本荘由利図工・美術の学び展は各校の造形活動の取り組みを紹介し合う機会であり、より幅の広い意味での情報交換の場となっている。昨年度から展覧会名を一新し、名札に作者の思いを入れて掲示するようにした。また、「豊かな学び」というみてもらいたい表現の選出を通して、子どもの表現の見方や造形活動の在り方について研修する活動の意義は大きい。

2. 各事業の成果

(1) 夏季研究集会への参加 (8月2日)

本荘由利教育研究会造形部夏季研究集会では、秋田県造形教育研究会による「造形セミナー」に参加した。講演では「明るい未来を拓く造形教育～子ども法海に基づいた授業実践から～」という演題で他県の取組について知ることができた。また、実践紹介は「授業等における ICT 活用について」というタイトルで、今後の授業に役立てていける内容であった。

(2) 造形部研修会 (12月7日)

由利本荘市市民交流学習センター多目的ホールを会場に、県児童生徒美術展に出品する本荘由利の作品を選出する公開審査会として行った。26年度から立体作品の審査も行っているが、各校の出品数を事前に報告してもらうことで審査時間を短縮することができた。造形部員にとっては、児童生徒の作品の傾向・良さ・課題について話し合う有意義な研修の場となり、今後の授業に役立つ多くの情報を得ることができたはずである。

また今年度は、審査で選出された作品を新しい会場となる秋田市文化創造館にて、3年ぶりに展示することができた。

(3) 本荘由利図工・美術の学び展 (12月17日～12月19日)

由利本荘市文化交流館「カダーレ」で開催した。テーマである「あっ、いいこと考えた」を反映した個性豊かな表現が多く見られた。カダーレを会場として実施するのは11回目ということで、3日間で1200名を越える来場があり、多くの方々に見ていただけた。

出品作品の中から造形部が目指す表現を「豊かな学び」として選出した。各小中学校の教職員及び、造形部員の熱心な取り組みと各校の協力で、運営面・作品の内容ともにより充実した美術展となった。

来年度も本荘由利図工・美術の学び展が新学習指導要領の趣旨に則った研修の場となるように協議を重ねていき、具体的な取組を各校に発信していく予定である。